

ドクター通信

23

乳がんについて

市立総合病院院長 田中隆夫

予測される 乳がんの増加

近年、日本では乳がん、大腸がん、肺がんが増加しています。がんの発生原因はまだ解明されていませんが、乳がんの場合、疫学的には動物性脂肪の摂取量の増加と肥満が大きく関与しているといわれています。このことは、四十歳から五十歳代までの乳がん発生頻度を統計上からみると、明らかに肥満の人に多く、また食べ物では肉類を毎日食べる人に多いことが示されています。特に中年になつてからの乳がんの予防としては、動物性脂肪の多い食べ物の摂取量を抑えていくことと肥満の防止に努めることが必要です。

また、乳がんリスク(乳がんになる危険率)は、既婚女性に比べて未婚女性の方が高いという結果がでています。結婚していない人の乳がんリスクは結婚していない人の半分以下がり、結婚していて子供を二人以上産んでいる人の乳がんリスクは更にその

の半分に下がります。最近の新聞で、結婚についてのアンケートに結婚を望まないと答えた女性が多くなっていることを知りました。こうした状態が現実だとすれば、今後ますます乳がんは増加すると予測されます。

早期発見、早期治療が 身を守る

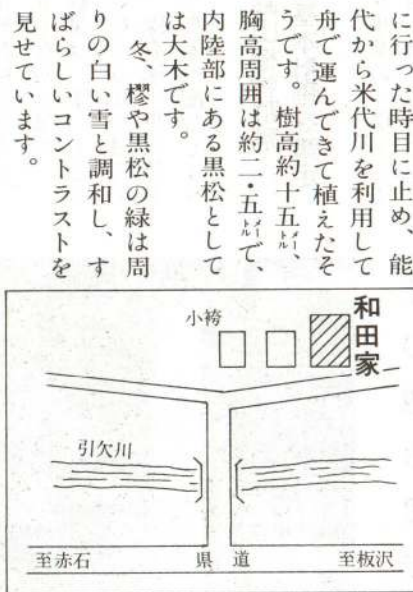
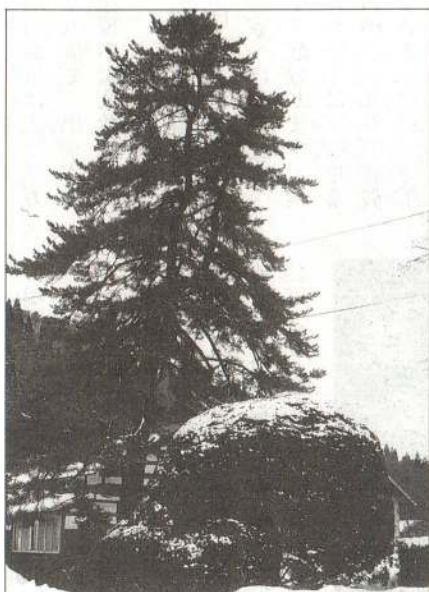
一般に、乳がんは乳房にしこりとして現れることが多いので、自分でしこりに気付いて受診する人がほとんどです。しかし、しこりがすべてがんというわけではありません。多くは乳腺症や線維腺腫といった良性のものなのです。しこりに気付いていても、がんといわれるのが怖いとか、痛みがないからがんではないか、痛い、受診しない人もいます。私たち医師が経験した乳がん症例でも、乳がん患者の約二五％は病期期間(しこりに気付いてから受診するまでの期間)が六カ月を超えています。これではがんが進行し、治るものも不治となつてしまします。

また、しこりが分からなくても、乳首から黒っぽい色や赤っぽい色をした異常な分泌物が出ることもあります。この場合の一〇％はがんの原因と考えられます。それに、乳首に湿しんのような変化(色調の変化やただれ)が生じた場合も要注意です。乳首に近い乳管に発生した乳がんが、乳管に沿って増殖し、乳首に直接浸潤して、湿しんのように現れることがあるからです。乳がんから身を守るには、早期発見、早期治療が第一です。乳房のしこりに気付いたり乳首に異常を発見したりしたときは、できるだけ早く受診することが望まれます。

年1回の検診と 月1回の自己検診を

市では、昭和六十三年から乳がん検診を実施しています。年一回の検診ですから、必ず受けるようにしてほしいものです。また、毎月一回は医師になつたつもりで自己検診をしてください。まず、ふろに入つた時、乳房にしこりがないかどうか触診します。次に床に入つてから仰向きになつてもう一度触診します。この二回の触診は、医師が行っている立位と背位での方法と同じですから、これだけでも立派な自己検診です。さあ、今月から早速実行してみましよう。

守りた... 残した... 並木・名園・名木 和田家の樫・黒松



○所在・大館市小袴字小袴20
○所有者・和田 晋一氏
○由来・特色
樫と黒松のある和田家の初代五助氏は、同じ集落にあった本家から二十歳代前半の文政年間(一八一八～一八三〇)に現在地へ分家したそうです。樫は、その時に建てた家のそばへ四本移植したといわれています。現在、それらの樫は家の東側へ南北に並んでいます。中でも一番大きいのは、推定樹齢約三百年、樹高約五m、周囲約二十四mで、頭頂部が円筒形に仕立てられ、その姿は近郷にないほどみごとです。
また、黒松は一番大きい樫のそばにあります。この木は、高齡の五助氏が明治初期に能代方面へ鰯(いわし)を買に行った時目に止め、能代から米代川を利用して舟で運んできて植えたそうです。樹高約十五m、胸高周囲は約二・五mで、内陸部にある黒松としては大木です。
冬、樫や黒松の緑は周りの白い雪と調和し、すばらしいコントラストを見せています。